

一貫教育校の広場

ニューヨーク学院
(高等部)

女子高等学校

志木高等学校

高等学校

湘南藤沢
中等部・高等部

中等部

普通部

横浜初等部

幼稚園

ごみの出ない学校、ごみのない地球を目指して

● 中等部 教諭 足立朋之 あだちともゆき

2025年8月5日、この日は伊勢崎市で41・8度を記録しました。国内の歴代最高気温を更新したわけですが、きつとこの夏も日本各地で暑い日々が続くことでしょう。最高気温が40度以上の日を今年から酷暑日と呼ぶようになりましたが、その酷暑日はいったい何日あるでしょうか？

世界規模で進む環境破壊や人口増加に伴う諸問題が取り沙汰されている中、限られた資源をいかに循環させて再利用・再資源化するかが強く求められています。ごみの最終処分場である埋立地も限られています。時代は「大量生産・大量消費・大量廃棄」から「適量生産・適量購入・循環利用」へと向かっています。

そんな中、中等部では校内にリサイクルBOXを設置して、学校で出るごみを可燃・プラスチック・ペットボトル（PET）などにしっかりと分別することからチャレンジを始めました。このBOXは、学校林「岡山落合の森」のヒノキ間伐材を使用したオリジナルデザインです。さらには、さまざまな種類の回収ボックスを新たに設置することで、サーキュラーエコノミー（循環型経済）に積極的な企業と連携して、アップサイクルやリサイクルに取り組んできました。

例えば、ステンレス製のボトルです。1年目の2023年の回収量は約21kgでしたが、3年目は約130kgとなりました。回収の輪が広がり、幼稚舎や女子高、大学キャンパスなどからも届くようになったためです。また、中等部生がデザインしたオリジナルボトルを毎年製作・販売しています。ガーナ首都アクラ近郊には、「電子ごみの墓場」



学校林の間伐材を活用した、校内のリサイクルBOX

と呼ばれる世界最大級のごみ山があります。そのアグボグプロシー地区に初めて学校を建設する計画があるそうで、今年売り上げの一部をアフリカに寄付することにしました。

ステンレス製のボトルの他には、プラスチック製の文房具、クリアホルダー、使い捨てコンタクトレンズの空ケース、ビニール傘、食品保存用袋、パウチタイプのゼリー飲料容器、キッチンスポンジ、飲料用の紙容器、基準服（制服）。

合計10種類の回収ボックスを設置しています。在校生から新入生へのプレゼントを再生プラスチック製の3色ボールペンにしたり、2028年度からは循環型制服を導入したりすることで、身近な教材が増えつつあります。

このように、中等部では校友会活動（社会研究会）や3年生対象の選択授業（SDGsのすゝめ）が中心となって、「ごみの出ない学校」を目指して取り組んでいるところでは、三田界限から日本全国へと少しずつ活動範囲を広げていって、いずれは「ごみのない地球」となることを夢見て、これからも働きかけていきたいと考えています。慶應義塾の目的にある、「躬行実践^も以て全社会の先導者たるんことを欲するものなり」を現代風に言い換えると、「持続可能な未来を担う先駆者や先導者となるように努めなければならぬ」とも言えるでしょう。中等部を卒業していった生徒たちが、やがては先駆者や先導者となって世界中で活躍してくれることを願っています。

※使用済み制服を繊維原料に戻して新たな制服へと作り直す、衣服の大量廃棄を減らすための取り組み